

18 「深い学び」を視点とした授業改善の実践

**こんな実践**

単元を貫く学習問題を設定し、毎時間それに関わる振り返りを繰り返してきたことで、生徒の中で個々の歴史的事象がつながっていき、前の時代にまでさかのぼって以前に学んだ事柄の意味や定義を捉え直していった実践です。

実践学校 N 中学校

実践学年 3 学年

実施時期 6 月中旬

単元名 「二度の世界大戦と日本」

学習指導要領との関連 歴史的分野 C 近現代の日本と世界

(1) 近代の日本と世界 (カ) 第二次世界大戦と人類への参加 イ (ア)

【単元のねらい】

工業化の進展と政治や社会の変化、明治政府の諸改革の目的、議会政治や外交の展開、近代化がもたらした文化への影響、経済の変化の政治への影響、戦争に向かう時期の社会や生活の変化、世界の動きと我が国の動きとの関連などに着目して、事象を相互に関連づけるなどして、近代の社会の変化の様子を多面的・多角的に考察し、表現すること。

【単元の流れ】

3年生歴史「2度の世界大戦と日本」の単元の学習です。映画「はだしのゲン」を見て戦争の悲惨さを痛感した生徒たちは、「なぜ日本は戦争へつき進んでいってしまったのだろうか」という単元を貫く学習問題のもと、世界恐慌から第二次世界大戦終わりまで、10時間近く学んでいきました。そして、単元最後にもう一度最初の学習問題に立ち返って話し合いました。

【単元構成で意識したこと、工夫したこと】

・毎時間、「今日の学習内容で日本が戦争につき進むことにつながりがあるものはあったらどうか。また、その理由は何だろうか」というように、本時の学習内容と単元を貫く学習問題とのつながりを視点とした振り返りを積み重ねていくことで、生徒の中で日本が戦争に突き進んだ原因への考察がにつながり、深まっていくようにした。(振り返りの工夫)

【単元展開】

時間	○学習活動	・支援, 指導
1 導入	①映画「はだしのゲン」を見て、感じたこと疑問を書き、発表し合おう」	・戦争の悲惨さ、戦争の原因への疑問が湧き上がる資料として映画「はだしのゲン」を用いる。
2 ～ 9 展開	②単元を貫く学習問題「なぜ日本は戦争につき進んでしまったのだろうか」について、以下の学習内容と関連させて考えていこう。 ・世界恐慌 ・欧米諸国が選択した道(ニューディール政策, ブロック経済など) ・強まる軍部とおとろえる政党 ・戦争につき進む日本(日中戦争, 国家総動員法など) ・第二次世界大戦への道 ・太平洋戦争と植民地支配の変化 ・戦局の悪化と戦時下の暮らし ・ポツダム宣言と日本の敗戦	・生徒の感想や疑問から単元を貫く学習問題を立ち上げる。その後、その学習問題についての単元最初の自分の考えをまとめ、発表し合うようにする。 ・以降、教科書の見開き2ページごとに学習を進め、毎時間の最後に「今日の学習内容の中に、日本が戦争につき進んだ原因はあっただろうか」について自分の考えをまとめ、話し合う時間を設けていく。
10 まとめ	③単元の学びを生かして、単元を貫く学習問題についてもう一度話し合おう。	・これまでの学びを生かしながら、単元を貫く学習問題についてもう一度話し合う場を設ける。 ・話し合いの後、単元最初の自分の考えと本時最後の自分の考えを見比べる時間を設け、自分の学びの深まりを実感することができるようにする。

【本単元での生徒の学びの姿から】

○単元を貫く学習問題「日本はなぜ戦争につき進んでしまったのだろうか」に対する単元最初のA君の考え(上記単元展開②の最初)
→「戦争に向かうという世界の時代の流れ」



○単元最後の話し合いの時間 最初のA君の考え(上記単元展開③の最初)
→日本は、力を持っていた国と対立したりしてしまったからだと思う。そして物資や人材, 金もない中で世界の戦争の流れに沿って戦ってしまったので, 戦争へ進んでいってしまった。そして満州を日本が支配してい

たせいで、中国に味方していたロシア，アメリカ，イギリスとも敵対関係になってしまった。

○日本が戦争につき進んでしまったことと深い関係のある出来事は？

1位：世界恐慌 2位：ABCD包囲陣 3位：ポツダム宣言

○単元最後の班での話合いで（上記単元展開③），A君は以下のような友の考えに触れた。

- ・国際連盟を脱退したことにより，他国との関わりがなくなった。
- ・ブロック経済は，他国との関わりをなくすものだった。
- ・世界恐慌→国際連盟脱退 資源が欲しいから。
- ・日独伊三国同盟を結んでいなければアメリカと対立することはなかった。
- ・東南アジアへ軍隊を進めたのは，鉄や石油がなくなっていったから。



○「友と意見交換をして，（授業最後の）今の自分の考え」（上記単元展開③後半）へのA君の記述

→「物資や人材不足」大きな戦争や事件を見ると，ほぼ全部が物資や人材を求めて他の土地に攻めていったりしているから。そしてその元になっているのが世界恐慌だと思う。世界恐慌からほとんど全部の戦争や事件につながるから。日本だけではなく，外国も同じ状況だったから，世界規模になった。

○「この時間の感想」へのA君の記述

→僕はこの単元より前の富国強兵のことがわかった気がしました。やはり豊かでない世界が荒れるし，強い兵がいないと戦争が長引く。だから今の時代みたいに豊かさがあれば，このような戦争がある時代にはならないと思う。

【A君の本単元の学びへの考察】

A君は単元始めから，「世界の時代の流れ」と，日本だけでなく世界との関係性の中で日本が戦争につき進んだ理由を考えていた。そして 10 時間学んでくる中で，「世界恐慌」に1番の理由を求めようようになっていった。理由には「始め，世界で1番力を持っていたアメリカが不景気となり，だんだんとヨーロッパや世界も不景気となり，世界の国はお金が欲しかったことなどもあり，戦争を始めるきっかけになったと思う」と書いており，当初「世

界の時代の流れ」としていた中身を、「世界に広がった不景気」と、経済に着目して学びの中で具体的にしていたことがわかる。さらに本時、グループで友と話し合う中で、世界恐慌と国際連盟脱退、世界恐慌とブロック経済という自分が1番の原因と考えた世界恐慌と、友達が大きな原因と考えていた国際連盟脱退やブロック経済とのつながりを考えていった。また、友の意見から「世界恐慌から資源が欲しくなった」とその流れを再考し、話し合いの後、「物資や人材不足」と、世界恐慌の先に日本が直面した問題へと思考を広げていった。A君は学習内容の間を行きつ戻りつしながら、その意味や意義を何度も捉え直していた。

また、教師はA君が授業最後にまとめた感想の「この単元より前の富国強兵のことがわかった気がしました」という記述にうならされた。この第二次世界大戦の単元で経済と戦争のつながりに気づいていったT君の思考は、前の時代の学習内容へさかのぼり、「豊かでないと世界が荒れるし、強い兵がいないと戦争が長引く」と、以前学んだ「富国強兵」の意味や意義を、自ら、もう1度吟味し直していったのだった。



ここがポイント！

- ・単元を貫く学習問題に関わらせて振り返りを繰り返していくことで、生徒は学習内容の間にあるつながりや関連性に目を向けていくことにつながっていきます。

まとめ

- ・A君は友の意見にふれ、学習内容の間を行きつ戻りつしながら、その意味や意義を何度も捉え直していました。また、前の時代にさかのぼり、以前学習した「富国強兵」という言葉の意味も捉え直していました。こうして単元の中に振り返りを位置付けることは、事象と事象の間のつながりや関連性に気付きにつながっていきます。